ヘーゲルが提唱した弁証法とは？世界がどのように出来ているのかを知る方法 Part 2

弁証法の考え方その１：

万物（ありとあらゆる物）は対立する何かがあってこそ存在する。

フワフワと宙に浮かび上がろうとしても、重力が対立してあなたを押さえつけるように。どこまでも伸びをしたいけど、腱や靭帯が対立して体が千切れるの止めてくれたり、朝と夜があり、眠りと覚醒があるように万物は対立する何かがあってこそ存在します。

そして、変化は対立する何かがあってこそ起きる物です。

例えば、革命。

支配する人間と支配される人間が居て、支配される人間が支配する人間を倒して、組織や国が変わるように、

例えば、イノベーション。

現状維持に対立して、新しいアイデアを作り出して、現状が変わるように、

人類史はこのような、対立する物事同士の綱引きのような引っ張り合いにより、変化して今に至るのです。対立する何かが、変化を起こしていなかったら、殺しては奪い合う戦乱の時代のままであったり、日常的に奴隷が飼われる社会のままであったでしょう。

そんな世界が善か悪かと言う事はあなたの判断や嗜好次第ですが、変化があってこその今なのです。

そして、対立する何かがあってこその変化と言う事を理解すれば、独り善がりに自分が立つ立場だけを考える事が無くなるはずです。そして、対立する何かを打ち負かし、あなたが叶えたい変化を手にするためには、対立する何かの事を理解する事が大事になってきます。それは、対立する何かの弱みや強みを知って、どうやって攻めるか？と言う戦略作りから、対立する何かの事を理解しようとした末に、自分達が行っている事、行おうとしている事は本当に正しいのか？と言う事への深い理解にも至るでしょうから。